

2番 佐藤安美です。通告に基づきまして一般質問を行います。

本町は人口減少と少子高齢化が著しく進み、住民を取り巻く環境や状況、そして、かつて目にしていた農地や建物などの「風景」が年々変化しています。

そして、この変化は、岩泉町が持続可能なまちづくりを進め、未来を拓くために解決しなければならない切実な課題として、すでに表面化しています。

大川地区を例にあげますと、高齢化率がここ10年間で約45%から約56%へと大幅に増加しており、大変危機感を持っています。

人口減少や少子高齢化の進行により、地域の活力が低下し、それとともに住民の繋がりも弱くなってきていることから、この課題は大川地区のみならず全町で抱えている深刻な課題として、危機感を持たなければならないと思っています。

このまま高齢化が加速し、高齢者の一人暮らし世帯、夫婦のみの世帯、後期高齢者世帯が増え続ければ、近い将来、集落が消滅に向かい、残された住民では支えきれなくなります。中でも高齢者生活支援に関する課題は、早急に対応策を考えなければならない大きな課題です。

そこでまずは、働く意欲の高い高齢者を募り、グループ化し、一定の作業や一部の労働を担っていただく仕組みをつくり、そのグループ運営団体に活動奨励金等を支給するような仕組みを創設してはいかがでしょうか。

高齢者の仲間づくり、生きがいづくりにつながるとともに、遊休農地の有効活用につながる施策になるものと思います。

現在、本町には雑穀栽培を中心としたグループがいくつかあり、生きがい対策や仲間づくりを目的に2、3年前から活動をしている団体があります。グループの代表者によると「高齢になると一人での農作業には限界があるが、複数の

人数が集まれば、人数以上の力が出て仲間を通しての笑いが絶えず、仲間づくりに大いに役立っている」という様な話があるとのこと。

行政による積極的で幅広い支援があれば、町民の生きがい対策につながるとは思いますが、町長の見解をお伺いします。

2番 佐藤 安美 議員の御質問にお答えします。

初めに、高齢者グループへの活動支援についてですが、本町の高齢化率は、本年11月末現在で46パーセントと、実に町民の半数近い方が高齢者という状況であり、高齢化率の進行に危機感を抱くとともに、全世代の皆様から、主体的にまちづくりに参加いただくことへの重要性が一層増していることを実感しております。

町では、これまでも働く意欲のある高齢者を応援するため、町シルバー人材センターへの財政支援を行っております。

当該事業には、働く側には就労機会が確保され、経験や能力を生かした社会参加といったメリットもあり、仕事を依頼する地域の側には、労働力不足の解消のほか、世代間交流、経験や知識の伝承といった利点があるものと認識しておりますので、今後も大いに活用していただきたいと考えております。

また、町民アイデア実践支援事業や、各地域振興協議会が実施する地域振興事業など、まちづくりに取り組む皆様の活動支援に取り組んできたところであります。

町民アイデア実践支援事業につきましては、本年度は5団体が、それぞれ企画する事業を実践しており、雑穀栽培や郷土料理の移動販売・食文化体験会など、個性を

生かし自主性を持った活動に取り組んでおります。

議員御案内のとおり、グループでの地域活動は、仲間づくり、生きがいつくりにつながる活動であり、ひいては地域の活性化にもつながる重要な役割を担っておりますことから、引き続き、町民の皆様が自主的な活動ができるよう、支援してまいりたいと考えております。

併せて、議員御提言のグループによる遊休農地の活用につきましても、農地の荒廃防止と地域資源の活用、地域コミュニティの強化に資する、大変有意義な取組であると認識しております。

現在、雑穀の栽培と販売に対する奨励事業や、グループで雑穀を栽培し、それを収穫して皆で味わうといったコミュニティ活動に取り組んでいる地域振興協議会もありますことから、町といたしましても、さらなる活動の広がり期待を寄せているところであります。

まちづくりの主役である町民の皆様が生きがいを持って楽しく生活できるまちであること、そして高齢者のみならず町民の皆様の所得向上は、町として取り組むべき大きなテーマの一つでもありますことから、今後とも、効果的な施策を多角的に研究してまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上で答弁を終わります。